

## 第2学年 国語科学習指導案

日時 平成26年10月10日(金) 5校時  
場所 2年3組 教室  
児童 2年3組 男子15名 女子11名 計26名  
指導者 佐々木 和 子

- 1 単元名 お話のじんぶつと自分を くらべて読もう (読むこと)  
学習材名 「わたしはおねえさん」 (光村図書 2年下)  
補助学習材名 「すみれちゃん」「すみれちゃんは一年生」他

### 2 単元について

#### (1) 児童について

児童は、1年生の時から、登場人物の行動を中心に場面の様子を読み進める学習を、多くの物語教材を通して学習してきた。2年生では、「ふきのとう」では、登場人物の言動から登場人物の気持ちや場面の様子を想像して音読する学習をした。また、「スイミー」では、人物の言動や場面の様子から感想のことばをつかって感想を書く学習をした。「お話の国の友だち」では、人物を表す言葉を知り、その中から登場人物に合うことばを選び、感想をまとめる学習をしている。しかし、文章の一部分のみに注目し、物語の全体をとらえることができないために、断片的な感想にとどまっている児童もいる。また、お話を讀んだり聞いたりするのが好きで「おもしろい」とか「好きだ」と思っているが、その気持ちを、登場人物の行動や会話から自分の言葉で説明することができない児童も多い。様子を表す言葉や行動を表す言葉などの語彙を手がかりに登場人物の気持ちを考えるという一つの方法が分かれば他の段落でも同じ方法でとらえられる児童は多いが、さらにその内容に対して自分の思いをまとめることが難しい児童もいる。

読書の様子をみると、9割の児童が1ヶ月の読書目標10冊を達成している。これまで、単元の学習と関わらせて同じ作者の作品を読むこと(レオ=レオニ、森山京)、同じ主人公が出てくるシリーズ本を読むこと(「ふたり」シリーズ)を並行読書してきた。目的をもって取り組む読書においては、長い文章も抵抗なく読むことができる。一方で、読みたいものを選んで自由に読む読書では、絵本や物語以外の本を好む傾向の児童もあり、長い文章にじっくりと取り組むことができない様子も見られる。単元に関わって同年代の主人公が出てくるお話を讀んだことがある児童は23人おり、家庭での読書習慣がついている児童も20人程で、読書量や習慣化での差も出てきている。

#### (2) 学習材について

「わたしはおねえさん」は、「すみれちゃん」シリーズの著者石井睦美の教科書のための書き下ろしである。主人公は児童と同じ2年生であり、主人公の行動や周りで起きる出来事は、児童にとって身近であり主人公に親近感をもって読むことができると思われる。話の展開が軽快で明るく、読み終わると温かい気持ちになる。物語の中で主人公は歌を作り、うれしい気持ちや複雑な気持ちを表現しているところも本学習材の特徴である。主人公が作る歌は、主人公の素直な気持ちが表れており、リズムカルな歌を読み味わうことでも、児童は自分の行動を振り返りながら主人公に共感し、楽しく読み進めていくことができると思われる。また、主人公の言動は、自分よりも幼い立場にある妹を理解し、理不尽な対応にも優しく接することができるまでの主人公の葛藤も表されている。主人公と妹の気持ちのすれ違いから、心が通い合うまでの心の動きを考えていくことにより、主人公の心の成長にも気付くことができる。妹の行為を優しく許す主人公の心の成長を自分に引き寄せて読むことにより、児童が自分自身の成長に気付くきっかけにもなると考える。さらに、保護者にとっても、主人公の姉妹を自分の子どもと重ね合わせて読むことができる物語であり、親子でお話の内容を共有して読む物語としても適している。

補助学習材として、「すみれちゃん」「すみれちゃんは一年生」等のすみれちゃんシリーズをはじめとする同年代の主人公が出てくるお話をとりあげる。自分と同じような年頃の人物が出てくる物語をたくさん読むことは、人物の行動について自分と重ねながら読むことができ、自分の経験を思い出しながら場面の様子を想像する読み方につながる。絵本から物語のおもしろさへと向かう途中の子どもたちにとって、等

身大の人物と自分を行き来しながら読むことは、選書を含め、読書の楽しみが広がるきっかけになると考える。さらに、人物の行動を中心に自分と比べて読み、感想を書くことは、読書を通して自分について考えることの出発点にもなると考える。

### (3) 指導にあたって

本単元では、場面の様子について行動を中心に、想像を広げながら読み、主人公と自分を比べて感想をまとめる学習をする。内容の大体をとらえ、主人公の言動から想像を広げて読む力、自分の経験を振り返り、主人公と自分を比べて読む力を付けるために「お話の人物と自分を比べて読み、感想をそえて友達や親に本を紹介しよう」という言語活動を設定する。

単元の導入では、同年代の主人公が出てくるお話のブックトークを行い、自分の経験と比べて読む楽しさを味わい、学習材の読みに向かわせる。初発の感想では、主人公と自分とを比べるという視点を与えることにより、自分と似ているところや「なぜノートを消さなかったのか」という主人公の行動への疑問がわいてくると思われる。その解決を読みの目的として、人物の行動や会話、場面の様子を明らかにすることにより、想像を広げる手がかりとする。

想像を広げて読む力を付けるために、第2次では、主人公の行動や会話、場面の様子について取り上げる。その中で、書いてある事柄について、自分の知識や経験、読書体験による比較、人物の行動への思いを語ることによって、想像を広げて読むことへつなげていく。その際に、人物を表す言葉、感想の言葉を使いながら主人公の人物像を捉え、感想をまとめるための手立てとする。また、第3次で自分のお気に入りの本を紹介するために、「ジャンプの課題」として、同年代の主人公が出てくる本を読み、自分の経験と比べて感想をまとめる。

第3次では、それまでの読みの力を使って、同年代の主人公が出てくるお話の中でお気に入りの本を、自分の経験と結び付けた感想を添えて友達やお家の人に紹介することにより、友達や親子で読書をともし、本の人物を通して自分のことを話し合うことにもつなげ、家庭での読書の充実に結び付けたい。

## 3 単元の指導目標と評価規準

| 観 点             | 目 標   | 評 価 規 準  |
|-----------------|---|--|
| 国語への関心・意欲・態度    | 自分の体験や気持ちと重ねながら、興味をもって物語を読むことができる。              | 等身大の人物が書かれた物語を、自分の体験や気持ちと重ねながら、読もうとしている。                                   |
| 読む能力            | 登場人物の言動や場面の様子から想像を広げ、自分の経験と結び付けながら読むことができる。(1)ウ | 場面の様子や主人公の行動や会話について、感想をもちながら読んでいる。<br>心に残った言葉や文を書き抜き、自分の経験と結び付けて、感想を書いている。 |
| 言語についての知識・理解・技能 | 人物や感想を表す言葉の中から、自分の気持ちに合う言葉を選ぶことができる。<br>(1)イ(ウ) | 人物や感想を表す言葉の中から適する言葉を選び、本や文章を読んで感想を書く際に用いている。                               |

#### 4 単元の「学びのプロセス」の構想（全12時間）

##### 【指導過程】

##### 【問題解決の流れ】と【主な学習活動】

第1次（2時間）  
単元のねらいを知り、  
学習の見通しをもつ。  
【関心・意欲・態度】

【主な学習活動】  
①・同年代の主人公が出てくる本のブックトークを聞く。  
・お気に入りの本を見つけて、本を紹介するイメージをもつ。  
②・「わたしはおねえさん」の範読を聞いたり、音読したりして感想をもつ。  
・単元の学習の見通しをもつ。

第2次（6時間）  
主人公と自分を比べながら読み、感想をまとめる。  
【読む能力】  
【言語についての知識・理解・技能】

すみれちゃんと自分をくらべてかんそうを書こう  
①すみれちゃんはどんなじんぶつかない。  
②すみれちゃんがノートをけさなかったのはなぜかな。  
③同年代の主人公のお話を読んで自分とくらべてみよう。

【主な学習活動】  
③・「わたしはおねえさん」を読み、物語の大体をとらえる。  
④・すみれちゃんの人物像をとらえる。  
・同年代の主人公の人物像を見つける。  
【ジャンプの課題】  
⑤⑥・すみれちゃんの言動から心に残ったことを話し合う。【本時】  
・主人公の行動の変化を見つける。【ジャンプの課題】  
⑦・すみれちゃんの言動から、自分を比べて感想をまとめる。  
・主人公と似ているところを見つける。  
【ジャンプの課題】  
⑧・「わたしはおねえさん」を読んだ感想を交流する。

第3次（4時間）  
同年代が出てくるお話の主人公と、自分をくらべて感想をまとめる。  
【読む能力】

主人公の会話や行動から、自分とくらべてかんそうを書くことができたよ。  
① 自分がえらん本の主人公と自分をくらべてかんそうを書こう。  
② 書いたかんそうを友達と交流しよう。

【主な学習活動】  
⑩・お気に入りの本のお話の大体と人物像をとらえる。  
⑪・お気に入りの本の感想をまとめる。  
⑫・感想を交流する。  
⑬・人物について自分と比べて感想をもちながら読んだことを振り返り、これからの読書生活につなげる。

◆同年代の主人公が出てくる作品を並行読書する。  
◆主人公の言動を中心に想像を広げながら読み、自分とくらべて感想をまとめる。

## 5 本時の指導 (5 / 12)

### (1) 目標

- すみれちゃんの行動や言動を自分と比べながら読むことができる。

### (2) 展開

| 階                  | 学習活動   | 学習内容   | 教師の支援と評価<br>★手立て2 (対話) 手立て3 (「課題設定」と「評価活動」)   |
|--------------------|--|--|---|
| つかむ<br>3分          | 1 本時の学習課題を確認する。<br><br><b>かだい</b><br>ノートにいたずらがきをされたすみれちゃんと自分をくらべて読もう。  |  | ・前時を想起し、学習の流れを確認する。   |
| 学び合う<br>ふかめる<br>3分 | 2 学習課題を解決する。<br>(1) 学習場面を音読する。<br>(2) すみれちゃんの行動や言動をとらえる<br>(3) 気になったことを話し合う。<br>・サイドライン<br>◆個人→ペア→全体<br>(4) 「すみれちゃんカード」を書く。<br>◆個人 | ○主語と述語<br>○登場人物の行動<br><br>○気になった文<br>○わけを説明する言葉<br>・～からです。<br>・～から～です。<br>○自分と比べる<br>・にているところ<br>・ちがうところ | ・すみれちゃんとかりんちゃんの会話とすみれちゃんの行動を確認する。<br><br>★主語に注意して、すみれちゃんとかりんちゃんの行動をみつける。<br><br>★すみれちゃんの行動で、気になったところを見つけ、サイドラインを引く。自分だったらどうするか、同じようなことがなかったか自分と比べて話し合わせる。<br>★始めと後のノートを見ていたすみれちゃんの行動の違いから気持ちの違いを考えさせる。<br>★もし自分だったらどうするか、すみれちゃんと自分を置き換えて想像できない子には、友達のことを聞いて、それを参考に考えさせる。<br><br>(評価)<br>心に残った言葉や文を書き抜き、自分の経験と登場人物と似ているところや近いところ、ちがうところを比べている。【読むこと】<br>(評価方法)<br>発言・カード |
| ひろげる               | 3 お気に入りの本の主人公が変化したところをさがす。<br>【ジャンプの課題】<br><br>お気に入りの本のお話の主人公がかわったところをさがそう。<br><br>◆グループ   |  | ・同じ作品を選んだグループで、物語を読んで、ジャンプの課題を解決する。   |
| 10分                | 4 学習をふり返る。<br>(1) 学習して分かったことをふり返る。<br>(2) 次時の学習を知る。  |  | ★主人公について自分と比べて書くことができたか振り返る。  |

(3) 板書

挿絵

「お花。」

挿絵

挿絵

わたしはおねえさん

かだい

ノートにいたずらがきをされたすみれちゃんと自分をくらべて読もう

いしいむつみ

半分くらいなきそうでした。  
もう半分は、おこりそうでした。

自分が、なきたいのかおこりたいのか分かりませんでした。

それで、じっと、ノートを見ていました。

すみれちゃんは、もう一度、ノートを見ました。じっと。ずっと。

挿絵